

## 審議会等の議事の要旨（要点）

（基本情報）

会議名称	立川市環境審議会
開催日時	平成30年2月21日（月曜日）10時00分～12時00分
開催場所	立川市役所本庁舎2階205会議室
次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 辞令交付</li> <li>2. 市長挨拶</li> <li>3. 委員紹介</li> <li>4. 環境審議会会長の互選について</li> <li>5. 環境審議会副会長の互選について</li> <li>6. 諮問 立川市第2次環境基本計画の中間見直しについて 環境施策の進捗状況について（たちかわし環境ブック）</li> <li>7. 議題 立川市第2次環境基本計画の中間見直しについて 平成29年度家庭で取組むエコチャレンジ審査について</li> <li>8. 閉会</li> </ol>
配布資料	<p>資料1 第11期立川市環境審議会委員名簿</p> <p>資料2 立川市環境基本条例及び立川市第2次環境基本計画の概要</p> <p>資料3 立川市第2次環境基本計画見直し方針</p> <p>資料4 H29 家庭で取組むエコチャレンジ審査表</p> <p>資料5 H29 家庭で取組むエコチャレンジ事前審査採点結果</p> <p>資料6 H29 家庭で取組むエコチャレンジ優良事例表彰について （参考）立川市家庭で取組むエコチャレンジ審査・表彰要領</p>
出席者	<p>[委員]</p> <p>会長 原剛、副会長 伊藤麻紀子、和田信行、加藤禮子、八木和夫、齋藤孚彦、村田佳壽子、山下英俊、甲野 毅、中島孝昌、猿渡厚史、宗野喜志、田中良明(敬称略)</p> <p>[事務局]</p> <p>大野茂（環境下水道部長）、五十嵐智樹（環境対策課長）、八谷俊太郎（環境推進係長）、柚木正史（環境指導係長）、神宮聖治（温暖化対策係長）、長嶺 毅（環境推進係）</p>
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0人
会議結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境審議会会長の互選 ・会長に原委員が選任された。</li> <li>2. 環境審議会副会長の互選 ・副会長に伊藤委員が選任された。</li> <li>3. 諮問：立川市第2次環境基本計画の中間見直しについて 諮問：環境施策の進捗状況について（たちかわし環境ブック）</li> <li>4. 議題：立川市第2次環境基本計画の中間見直しについて ・事務局より見直しについての概要説明後、見直し方針（事務局案）についてご議論いただき、承認された。 議題：H29 家庭で取組むエコチャレンジ審査について ・採点結果について、審議会の承認を受け、原案の通り優秀事例を選出することとした。</li> </ol>
担当	環境下水道部環境対策課環境推進係 電話 042-528-4341

## 第 11 期 第 1 回立川市環境審議会 会議録

開催日時 平成 30 年 2 月 21 日（水曜日） 午前 10 時 00 分～午前 12 時 00 分

開催場所 立川市役所本庁舎 205 会議室

出席者 [委 員] 会長 原剛、副会長 伊藤麻紀子、和田信行、加藤禮子、八木和夫、齋藤孚彦、村田佳壽子、山下英俊、甲野 毅、中島孝昌、猿渡厚史、宗野喜志、田中良明 (敬称略)

[事務局] 大野茂（環境下水道部長）、五十嵐智樹（環境対策課長）、八谷俊太郎（環境推進係長）、柚木正史（環境指導係長）、神宮聖治（温暖化対策係長）、長嶺 毅（環境推進係）

### 1 辞令交付

### 2 市長挨拶

市長より挨拶を行った。

### 3 委員紹介（自己紹介）

各委員の自己紹介を行った。

### 4 環境審議会会長の互選

会長に、原委員が選任された。

### 5 環境審議会副会長の互選

副会長に、伊藤委員が選任された。

### 6 諮問

副市長が諮問を代読し、諮問書を会長に手渡した。

諮問：立川市第 2 次環境基本計画の中間見直しについて

：環境施策の進捗状況について（たちかわし環境ブック）

### 7 議題

<立川市第 2 次環境基本計画の中間見直しについて>

事務局より事前配布資料 1～3 の説明を行った。

#### ○委員意見

- ・環境とは何か。地域文化を感じられることが環境ではないか。

立川市には、すずかけ三兄弟がシンボルとして残っている。このすずかけの木を保存するために、道路設計を変更しなおしている。環境と文化が結びついている。

たちかわし環境ブックには、さまざまなデータが示されている。横田基地の騒音や自動車の排気ガス、光化学スモッグなどは、環境基準を超えており、理想的な状態ではないことがわかる。

多摩川や国分寺崖線、玉川上水、昭和記念公園など恵まれた自然環境があり、緑の回廊を形作っている。さまざまな場所で、市民活動が行われており、Resource 財産として残っている。廃棄物の分別や減量が市民の協力のもとにできており、全国レベルの成果があがっている。また、農地減少もテーマとなっている。

さまざまな改善が見られ、立川市は可能性のある自治体である。

このような中で、様々な課題を解決の糸口となるように、事務局から説明のあったスケジュールを踏まえて環境基本計画の見直しをこの環境審議会を進めていきたい。

<議題：平成 29 年度家庭で取り組むエコチャレンジ審査について>

○委員意見

- ・人々の行動を根本から変えるエコチャレンジであるが、節約だけでなく、太陽エネルギーの導入やバッテリーの導入などの行動も考えられる。  
親子で取り組むエコチャレンジだが、市民一人ひとりが取り組むエコチャレンジでもある。環境に配慮した子どもを育ててもらいたい。  
一方で、地域での地産地消、エネルギーの軸を立てないといけない。
- ・エコチャレンジの参加人数は増えているのか？低学年しか参加していないのでは？  
⇒40 組程度、参加が増えるように分りやすくしたい。
- ・学校教育と関係があるのではないか。学校では学校施設をエコなスクールにするために、子どもたちが日常的に取り組むを行うエコスクールに取り組んでいる。両輪の取り組みとしたい。  
⇒ハード面については、市の総合的な取り組みの中で、考えて行く必要がある。できる限り反映できるようにしていきたい。ソフト面では、環境リーダーを派遣し、各学校での授業に活用を促している。ソーラーカーキットで説明することで、太陽電池の認識などにつなげている。
- ・会社からの寄付で、学校の屋上に太陽光パネルを取り付けた。子どもたちが関心を持っている。毎日、見えることが大事である。環境教育として、グリーンカーテンや生ごみコンポストに取り組んでいる。生ごみコンポストでできたたい肥で、野菜を育て、また生ごみコンポストに入れるというサイクルができています。やらないと身につかない。
- ・エコチャレンジの取り組みの説明の仕方次第で、評価の上下があるのではないか。このチェックシートの内容だけでは、評価が難しい。また、買い替えをした場合の評価はどう考えればいいのか。タイミングもあるので、日頃の行動と一緒に評価するのはどうか。採点を公平にできるように工夫をしてはどうか。
- ・エコチャレンジの取り組みは、いろいろな行動、工夫があり面白いと思う。
- ・チェックシートの書き方の上手、下手があり、評価は難しかった。書きやすい書類になるように考えた方がよい。  
エコチャレンジに取り組むにあたって、基礎知識などを学べるガイドラインなどは渡しているのか？  
⇒現在、ガイドラインなどは渡していない。オリエンテーションやガイドラインなどを検討したい。

○優秀事例の選出

優秀事例については、委員の採点結果をもとに、資料の通り 6 組を選出することとしたい。

8 閉会

以上